

【 中 津 市 】

平成31年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

1 調査結果の分析

小学校：国語

	問 題 番 号	正答率 (%)				問題の概要	出題の趣旨
		中津市	大分県	全国	全国との差		
全体	—	69	67	63.8	+5.2	—	—
成果が見られる問題	1 三	36.4	30.6	28.8	+7.6	公衆電話について調べたことを【報告する文章】に、「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)で分かったことをまとめて書く	目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く
	1 四 (1)ウ	43.6	36.8	35.6	+8.0	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の部ウを、漢字を使って書き直す(かんしんをもってもらいたい)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う
	1 四 (2)	56.5	50.7	47.8	+8.7	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の1文を、接続語「そこで」を使って2文に分けて書き直す	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う
	3 三	75.3	73.6	68.2	+7.1	【インタビューの様子】のイに、量職人の仕事への思いや考えに着目して心に残ったことを書く	話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる

○正答率の傾向から

- ・小学校国語においては、全国正答率を下回った問題がなかった。
- ・目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことができている（問題1三）。
- ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使えている児童が多い（問題1四）。
- ・話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめることができている児童が多い（問題3三）。
- ・情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉えることができている（問題1二）。

2 具体的な改善方策

小学校：国語

- ・全国平均は上回っているものの、「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く」ことができている児童の割合が低くなっているため、授業の中で「考え方」「まとめ」「ふりかえり」を学習用語を用いて、相手に伝わるように記述する活動を大切にしていく。
- ・漢字を文の中で正しく使える割合を更に高めるために、日頃の授業の中で意図的に学年配当漢字を使用するように取り組んで行く。
- ・教科横断的な視点を持ち、総合的な学習の時間や他教科の中で国語の学習と関連させ、評価していく取組を進める。
- ・上記の具体的な改善方策を取り入れた授業を、学力向上支援教員等の授業において公開し、成果を広めていく。

【 中 津 市 】

平成31年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：算数）

1 調査結果の分析

小学校：算数

	問 題 番 号	正答率 (%)				問題の概要	出題の趣旨
		中津市	大分県	全国	全国との差		
全体	—	68	67	66.6	+1.4	—	—
成果が見られる問題	1(3)	47.3	43.3	43.3	+3.9	減法の式が、示された形の面積をどのように求めているのかを、数や演算の表す内容に着目して書く	示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる
	1(2)	64	61	60.3	+3.7	二つの合同な台形を、ずらしたり、回したり、裏返したりして、同じ長さの辺どうしを合わせてつくることのできる形を選ぶ	図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成することができる
	3(4)	50.7	45	47	+3.7	1800÷6は、何m分の代金を求めている式といえるのかを選ぶ	示された除法の式の意味を理解している
課題が見られる問題	2(3)	49.1	49.1	52.1	-3	二つの棒グラフから、一人当たりの水の使用量についてわかることを選び、選んだわけを書く	資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述できる

○正答率の傾向から

- ・各領域ともおおむね全国よりも正答率が上回っている。特に「図形の性質や式の意味」などの理解はしっかりとできている。
- ・「資料の特徴や傾向を関連付けて判断し、その理由を記述する」ことについては、判断はできていても式や言葉を使って理由をしっかりと記述できていない児童が多い。

2 具体的な改善方策

小学校：算数

- 授業の中で、棒グラフなどのグラフから特徴や傾向を読み取らせるなど、数量の関係をつかませる活動を取り入れる。また何倍や一人当たりの量などを出すとともに、そう判断した理由を式と言葉をつかって説明させる学習活動の場を多く設定する。
- 単位量当たりの大きさをもとに数量を求める際に、キーワードを使って説明を記述させるなど思考力・判断力・表現力の育成を目指した授業に取り組む。
- 市内の学力向上支援教員（大幡小）や習熟度別指導推進教員（如水小）、指導教諭の授業の公開と事後研究協議への参加者を増やし、新大分スタンダードを具現化し、言語活動がある算数科授業の拡充を目指す。
- 各学校の効果的な取組を共有するために市の共有フォルダを利用する。

【 中 津 市 】

平成31年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

1 調査結果の分析

中学校：国語

	問 題 番 号	正答率 (%)				問題の概要	出題の趣旨
		中津市	大分県	全国	全国との差		
全体	-	70	74	72.8	-2.8	-	-
課題が見られる問題	1 四	49.9	55.1	56.8	-6.9	「声の広場」への投稿を封筒で郵送するために、投稿先の名前と住所を書く	封筒の書き方を理解して書く
	4	74.0	77.5	78.7	-4.7	語の一部を省いた表現についての説明として適切なものを選択する	語の一部を省いた表現について、話や文章の中での適切な活用の仕方を理解する
	2 三	55.8	63.9	60.4	-4.6	話合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていないこと」について自分の考えを書く	話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ
	3 二	74.0	78.7	77.8	-3.8	「広報誌の一部にある情報を用いて、意見文の下書きに「魅力」の具体例を書き加える」	「伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く」

○正答率の傾向から

- ・中学校国語においては、全国正答率を上回った問題がなかった。
- ・封筒に相手の名前と住所を正しく書けない生徒が多い（問題1四）。
- ・問題を最後まで確実に読めていないため「二つ選ぶ」ことができていない生徒の割合が多い（問題四）。
- ・3つの条件にしたがって書くことができていない（2三）。
- ・自ら情報を収集し、整理・分析するなどの力が弱い（3二）。

2 具体的な改善方策

中学校：国語

- ・住所より名前を大きく書く、「様」と「御中」の違いや正しい使い方、問題を最後まで意味を理解しながら読むこと等を指導する。国語の授業だけでなく、他教科・領域でも礼状を送る機会を設けるなど意図的に指導する。
- ・日頃の授業でも条件にそって振り返りを書かせるなどの学習活動を増やし、適切な評価、改善の指導を行う。
- ・総合的な学習の時間などと国語の学習を関連させ、国語の指導事項を意図的に入れ、評価していく。
- ・上記の具体的な改善方策を取り入れた授業を、学力向上支援教員等、部会の授業において公開し、成果を広めていく。
- ・上記と類似した問題を県データベースなどから選び、学び直し、補充学習、家庭学習において、計画的、組織的に取り組む。

【 中 津 市 】

平成31年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：数学）

1 調査結果の分析

中学校：数学

	問 題 番 号	正答率 (%)				問題の概要	出題の趣旨
		中津市	大分県	全国	全国との差		
全体		57	61	59.8	-2.8	-	-
成果が見られる問題	5	79.4	70.2	72.8	+6.6	2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも表の出る確率を求める	簡単な場合について、確率を求めることができる
	6(2)	38.3	38.6	34.7	+3.5	冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて、式やグラフを用いて、2つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる
課題が見られる問題	8(1)	48.0	59.9	57.9	-9.9	読んだ本の冊数と人数の関係をまとめた表から、読んだ本の冊数の最頻値を求める	資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる
	2	62.1	69.5	70.1	-6	連立二元一次方程式を解く	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる

○正答率の傾向から

- ・「確率を求めること」や「事象を数学的に解釈し問題解決の方法を数学的に説明すること」については、しっかりと理解していることが分かる。
- ・資料を整理した表から最頻値を読み取ることができない生徒が多く、また無回答率も高くなっている。
- ・簡単な連立二元一次方程式を解くという基本的な内容を理解できていない生徒が多い。

2 具体的な改善方策

中学校：数学

- 数学指導力強化巡回指導において数学科の教員の指導力の強化を図る。
→数学的な表現を用いて説明し、伝え合う活動を重視した授業の充実を図る。
- 学力向上支援教員（中津中・緑ヶ丘中）や習熟度別指導推進教員（中津中）の授業の公開と事後研究協議の参加者を増やし、思考力・判断力・表現力を育成する授業の拡充を目指す。
- 生徒のつまずきを具体的に捉え、個の習熟度に応じた指導に重点をおく。
→課題のあった問題や類似問題を県のデータベースを活用して学び直しさせていく。
- 各学校の効果的な取組を共有するために市の共有フォルダを利用する。

【 中 津 市 】

平成31年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：英語）

1 調査結果の分析

中学校：英語

	問題 番号	正答率 (%)				問題の概要	出題の趣旨
		中津市	大分県	全国	全国との差		
全体	-	52	55	56.0	-4.0	-	-
成果が見られる問題	1(4)	63.0	62.5	61.8	+1.5	家での会話を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する	日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる
	5(2)	76.1	75.1	74.4	+1.7	ある状況を描写する英文を読んで、その内容を最も適切に表している絵を選択する	日常的な話題について、簡単な文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる
課題が見られる問題	1(2)	77.4	84.2	88.6	-11.2	教室英語を聞いて、その指示の内容を最も適切に表している絵を選択する	教室英語を理解して、情報を正確に聞き取ることができる
	9(3) ①	43.2	60.5	53.5	-10.3	与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く	与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる

○正答率の傾向から

- ・ 1（2）の問題では、クラスルームイングリッシュを聞いてその指示に合う絵を選ぶことが出来ていない。低学力層の生徒においては聞いた内容を理解して正解を導き出すことができず、聞き取れた単語で選択肢を選んでいく様子が見られる。日頃の授業からクラスルームイングリッシュを意識して聞く必要がある。
- ・ 「書くこと」に関する問題について課題が見られる。全国、県と比較しても無回答率が非常に高い。特に9（2）①、②、では基本的な文の構造が定着していない。また、9（3）①については三人称単数現在時制の文で他人を紹介することができない。いずれも全国と比較し-10ポイントと差が大きいことから、求められる力と授業で付けた力にずれがある可能性がある。

2 具体的な改善方策

中学校：英語

- ・ 中津市外国語教育推進校公開授業研修会を利用した研修機会を提供することにより、小・中で連携した、外国語活動、英語科の授業改善を推進する。
- ・ 推進校2年生でGTECを実施し、課題の把握と解決方策についての研修をし、授業改善に生かす。
これらの取組により、4技能の確実な育成・定着を図る。
- ・ 中津市教育課程研究協議会・外国語部会における授業改善の取り組みを進める。
- ・ 中津市外国語科指導教諭、学力向上支援教員が中津市の課題解決に向けた授業を公開し、市内全域に広める。
- ・ 今年度新たに発足した中津市外国語教育推進委員会の中で、中津市の英語科における課題を協議し、解決に向けた取り組みを決定し、市全体での共通理解を図る。
- ・ 基礎的な文構造及び語彙力育成の取り組みを進め、書くことに対応する力を育成する。

【 中 津 市 】

平成31年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問紙）

1 調査結果の概要

児童質問紙

肯定的に回答した児童の割合について

	番号	質問事項	中津市	国	市と国の差
成果が見られる質問	(37)	国語の勉強は好きですか	74.3	64.2	+10.1
	(35)	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか	85.1	77.7	+7.4
課題が見られる質問	(18)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）（2時間以上と回答した児童）	24.3	29.3	-5.0
	(22)	新聞を読んでいますか	14.2	19.0	-4.2

生徒質問紙

肯定的に回答した生徒の割合について

	番号	質問事項	中津市	国	市と国の差
成果が見られる質問	(40)	国語の勉強は好きですか	64.6	61.7	+2.9
	(30)	1, 2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか	40.9	30.6	+10.3
課題が見られる質問	(54)	英語の勉強は好きですか	49.8	56.0	-6.2
	(18)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む）（2時間以上と回答した生徒）	30.1	35.5	-5.4

2 中津市の児童・生徒質問紙の調査結果をふまえて

- ・小・中学校とも、「国語が好き」と答える割合は全国を上回っている。上記表には記載していないが、算数・数学も国語ほどではないが、全国を上回っている。このことから、国語や算数・数学の授業改善は進んでいると捉えられる。
- ・英語については「好きですか」「大切だと思いますか」「よくわかりますか」という質問について、全国平均を6～9P下回っている。生徒が主体的に英語を学ぼうとする授業改善が急務である。
- ・小・中学校共に、1日あたりの家庭学習の時間が全国を下回っている。組織的・具体的な家庭学習の取組によって、家庭学習の時間の定着をはかる必要がある。
- ・小学校では新聞を読む児童の割合が低い。学校図書館司書との連携を強化し、さらに新聞を活用した授業を学力向上支援教員等の授業でも公開していく。
- ・小学校では問題解決的な授業が定着していることがわかる。今後も新大分スタンダードの定着から深化をはかる。
- ・中学校では、ICTの活用はすすんでいるが、つけたい力をつけることにつながるICTの活用の仕方を広めていく必要がある。

【 中 津 市 】

平成31年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

1 調査結果の概要

小学校：学校質問紙

肯定的な回答の割合

	番号	質 問 事 項	中津市	国	市と国の差
成果が見られる質問	(40)	調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	85.7	62.4	+23.3
	(53)	平成30年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校と成果や課題を共有しましたか	85.7	60.6	+25.1
課題が見られる質問	(27)	教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させていますか	85.8	94.4	-8.6
	(52)	前年度までに、近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	66.7	70.6	-3.9

中学校：学校質問紙

肯定的な回答の割合

	番号	質 問 事 項	中津市	国	市と国の差
成果が見られる質問	(61)	年間の授業のうち、どのくらいの頻度でALT（外国語指導助手）を活用した授業を行いましたか	60	38	+22
	(58)	調査対象学年の生徒に対する英語の指導として、前年度までに、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする言語活動を行いましたか	90	64	+27
課題が見られる質問	(24)	学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか	70	91	-21
	(8)	調査対象学年の生徒は、熱意をもって勉強していると思いますか	70	89	-19

2 中津市の学校質問紙調査の結果をふまえて

- ・小学校の質問番号（40）の回答に見られるように、「発展的な学習の指導」を行っている割合は、小・中学校とも高い。授業や学び直しの取組において発展的な学習を取り扱うことができている。
- ・中学校では英語の授業でALTを活用したり、言語活動を行ったりという授業改善がすすんできていることがわかる。今後はつけるべき力、評価規準を見直していく必要がある。
- ・小・中学校とも研修に関わって研究会への参加、研修の教育活動への反映、講師の招聘、小・中連携した校内研修といった割合が低い。このことから、校内にとどまらず、外に開いた研修によって意識の高揚をはかる。
- ・生徒の勉強に対する熱意を感じている割合が低い。みんなが活躍する授業を推進し、学びに向かう力を育成していく。